

## 福山駅前アクション会議（第1回）

日時：2019年7月16日（火）18時30分

場所：まなびの館ローズコム 4階 中会議室

### 議論内容（概要）

〈開会挨拶〉

#### 【福山駅前再生推進部長 池田】

- ・福山駅前再生ビジョン実現の為のデザイン計画を策定するために官民連携でデザイン会議を組織して取り組んでいる。
- ・デザイン計画とは、良質な公共投資と良質な民間投資の集積を促すための計画である。
- ・駅前再生の目的はエリア価値を高めて投資が出来る環境を整える。投資が賑わいを生みさらに賑わいが再投資を生む循環を作ることにある。
- ・福山駅前だけでなく周辺部分も連動して発展していくデザイン計画を作りたい。
- ・アクション会議は民間プロジェクトを計画に盛り込み反映させるために開催する。
- ・今日の議論はデザイン会議でも議論し、今年度末に作成するデザイン計画に反映したい。

#### 【ファシリテーター 清水義次さん】

- ・この会議はフラットな場である。こんな投資をしてみたい、市民として公共空間をこんな形に変えていきたい等、何を言ってもOKである。
- ・駅周辺は公共空間が多いが、今までは車を中心とした道路が優先されている。これをどのように変えていくか。行政だけでなく民間も加わって自分も責任を持って変えていく。それがこれからのやり方だ。
- ・福山の教育に関する意見でも構わない。それ以外にも中央公園や図書館の周囲で何か始めたい人が沢山出てくることを期待する。
- ・公園、図書館、霞銀座商店街の使い方など、駅周辺の再生と周囲を繋ぐプロジェクトに積極的にかかわってほしい。気楽に自由にのびのびと発言してほしい。

〈開催趣旨とテーマについて〉

#### 【事務局 瀬尾】

- ・アクション会議はエリアビジョンをテーマに新しい公民連携のプロジェクトを生むための議論をする場である。
- ・この会議で議論されるエリアのビジョンやプロジェクトをデザイン計画に反映して実現可能性のある計画にしたい。
- ・デザイン計画は2018年3月に策定した駅前再生ビジョンを具現化するための具体的なプロジェクトを織り込んだもので、アクション会議とデザイン会議の議論から作り上げる。

- ・2ヵ年かけて作成する予定で、1年過ぎた今年3月に中間とりまとめを公表、今年度末にはまとめていきたい。
- ・デザイン計画策定のプロセスは、従来の「計画する→ハードを作る→出来上がったものを使う」という流れではなく、矢印を反対の向きにして使う人作る人の意見を反映し、最後に行政がまとめるプロセスを取りたい。
- ・アクション会議は使う人作る人が集まる場なので、皆さんの思いをまとめてデザイン計画に反映させたい。
- ・エリアビジョンは駅前を、福山城、伏見町、三之丸町、中央公園の4つのエリアに分けて、それぞれの将来のビジョンを掲げそれを実現するためのプロジェクトを紐つけていくものである。
- ・デザイン会議やワークショップやトレジャーハンティングで提案されたものを元に中間とりまとめとして公表している。
- ・中央公園周辺エリアはトレジャーハンティングでは、図書館、中央公園が重要な空間資源と提案され、かつて福山藩の藩校誠之館があった場所で市民会館があったという歴史を踏まえて、コンセプトを「教育」としている。暫定ではあるが、エリアビジョンを「多様な知識と文化が融合する学びの拠点」としている。
- ・今日のディスカッションのテーマは「新しい教育」。学校教育だけでなく高齢者の生涯学習、社会人の学び直しなど教育のニーズも多様化し難しくなっている。
- ・これからの福山にとって必要な新しい教育の形は何かをメインテーマに「学び」「教育」をキーワードにディスカッションしてほしい。

〈ゲストトーク〉

【学校法人角川ドワンゴ学園 キャリア開発部副部長 園利一郎さん】

- ・N 高等学校という通信制高校の立ち上げに参加した。元々はニコニコ動画の立ち上げに参加した。N 高等学校は今年で開校3年目、他の通信高校と同様に3年間で高校卒業資格が取れる。授業はすべてインターネットである。
- ・履修主義でなく成果主義なので全日制の高校より自由な時間が多い。
- ・インターネットを利用しただけの通信学校ではなく通信制高校制度を活用した新しい高校を作りたいということで、5科目以外にも様々な授業を展開している。
- ・1万人を超える生徒がいて、入学志望からみても様々な生徒層がいる。一つ目の層は在学中に会社を設立するような層。次はエンジニアになりたくてプログラミングコースを選択するような専門的な授業を選択している層。何がしたいかわからない自分探しの層。他には学校に行けなかった不登校の生徒の層。1番目と2番目の層が10～20%程度を占めている。
- ・最近の不登校の生徒は色んな生徒がいて、普通の高校に行かせることにあまり価値を感じない親も一部いる。

- ・男女比は半々くらいで最高齢は88歳である。
- ・卒業時の進路決定率は全日制95%に対し、通信制高校全体では60%程度である。
- ・2019年3月にはN校で3年間学んだ初めての生徒が卒業を迎えたが、80%は進路決定して卒業できた。
- ・入学時不登校の生徒で卒業するのは77%程度である。
- ・大学進学実績も色んな大学に進学できるようになり、留学も多い。全日制では難しいが、通信では留学のための勉強や活動も出来る。
- ・通信制を活用して社会で活躍している生徒の紹介をする。eスポーツ優勝者、フリーランスのエンジニア、囲碁のプロ棋士、フィギュアスケート選手など、ほんの数%だがこういう生徒がいると他のN高生が自分の高校に誇りが持て、後押しになっている。
- ・日本全国どこでも勉強できるので、スマホ・PCで勉強しながら昼間は地域の活動をして普通に大学に進学した生徒もいる。
- ・高校では勉強だけでなく友達を作る能力も必要である。生徒コミュニティ企画もやっている。生徒は全国に散在しているのでネット上で色んな活動をして友達を作る。
- ・スラッグというツールでコミュニケーションを取っていて、ホームルームなどをネット上で再現している。
- ・今はまだ25~30%程度しか繋いでないのでもっと上げていき、ネット上でコミュニティを作れる学校を目指したい。その一環としてクラブ活動がある。基本的にはネット上でプロジェクトを一緒にする。
- ・一番大きいのは美術部で、お題に添ってPCで絵を描きインターネットにあげる。今後盛り上がるのはeスポーツ部で、世界大会を目指して練習している。ある意味プロスポーツ選手よりeスポーツ選手の方がなれる可能性が高いかもしれない。コミュニティ作りだけでなく、キャリアの1つとしても重視している。
- ・そのほか、起業部もある。起業したい人が集まり、コンサルタントしてもらいながら起業を目指す。
- ・文化祭は幕張メッセであるニコニコ超会議の一角をN高のエリアにしてブース出店したりする。また、音楽祭としてニコニコ超パーティのライブイベントに参加し、壇上に立つのは80人だが、全国の生徒が生放送を通じてモニター上にコメントを書いている。
- ・海外の大学に留学する国際教育プログラムもある。スタンフォードやオックスフォードに短期留学できる。
- ・これは完全にプロモーションで費用が高いので、こういうことを海外まで行かなくても地方でできるということで、地方で職業体験するプログラムがある。現在は20ヶ所くらいの連携だが今後もっと増やしていきたい。
- ・内容は、地域の産業や職業を5日間体験しながら夜はワークショップをし、余暇を地域の文化に接しながら過ごしてもらおうというもので、満足度が高い。
- ・職業体験として、自分たちで作ったものをN高生に売り、地域に循環させていく。

- ・廃校をどのように活用するか考え、村長にプレゼンすることもあった。
- ・地域滞在型の教育の良い点は、自分がそれまで生活していたコミュニティから離れると違う価値観が存在することを体験できる点にある。
- ・今後生徒規模が増えて数千人単位で地方に送り出せるようになると、公共施設の活用が出てくるのではないかと思う。
- ・もう1つ職業体験から生まれたプログラムとして経産省と一緒にやっている21世紀型スキルワークショップがある。社会に出たとき必要なのは知識ではなく仕事の能力やスキルである。ストレスや感情のセーブ、論理的に考える、アイデアを考えるとかデザインシンキングなど、社会に出て必要なことを中高生段階で教えるプログラムを展開している。
- ・経産省と一緒にやっているのでプログラムの進め方やマニュアルはWeb上で公開している。
- ・多様な生徒層と多様な課題が集まるセイフティネットとしての通信制高校が今までの通信制高校のイメージだろう。多様な生徒と課題が数千人規模で公開実証し高品質なプログラムが発生すれば、それがヒントになり地域との連携にも役立つのではないか。
- ・例えば竹富町とのコラボでネット時代のコラボレーションスキルの育成をしている。竹富町には島が8つあり、それぞれの島に小中学校がある。生徒数が10人位で同級生がいない。そういう状況の複数の学校をネットで繋げてプロジェクトを進めている。
- ・テレビのクイズ番組ディレクターなどと連携し、それぞれの小中学校を公民館にネットを繋いでクイズを作り、ネット上でクイズ大会をした。
- ・最近仕事もWeb会議やテキストチャット等ほぼネット上で完結していく中で、リアルなコミュニケーション能力だけでなく、離島や中山間地域でネットに依存しないと同年代に繋がれない人の方がネット上でのコラボレーションスキルが高くなっている。こういうことを生かした特色教育をやっていこうとしている。
- ・長崎県五島市では大学が無く人が出て行って困るということで、年間2~300人くらいを交流させることを目指してワークショップや地域インターン制度を作った。現地に行って視察し最終的に五島ワインでインターンをする。
- ・オガールでは今月末アドリブで起業するプログラムがある。オガール祭りでスモールビジネスを企画して2日間で儲けるということにチャレンジしようというプログラムである。

〈実践者による事例発表〉

【喜田さん】

- ・人の思い込みや価値観はどうやって作られるか、それは教育だと思う。人と出会って何かを伝えられる、教えられる、その中で価値観が培われると思っている。
- ・私は今3つの仕事をしている。1つは通信制高校、東林館高校の理事長である。不登校、いじめ、精神疾患など病気をかかえた子どもが一人でも復帰すると周りのたくさんの人

に光を与える。そういう可能性にかける仕事をしている。2つ目は、ボランティア団体を中央公園の清掃、子どもの孤食や学習のフォロー、教育フォーラムなどの活動をしている。3つ目は福山市議会議員である。行政の力を借りて子供たちを支援したいという思いがある。

- ・社会は今、成長社会から成熟社会へと変化している。皆一緒という価値観から、一人ひとり違うという価値観へ変わっている。ビジネスの社会も同様で、それに合わせて教育もカスタマイズしていかないといけない。
- ・既存の価値観ではなくて、一人ひとりがそれぞれの選択肢が取れるような、多様化した社会を生き抜いていく力をつけていかないといけない。
- ・我々の学校は一人ずつに合わせた授業展開をしている。駅前にある立地は非常に大きくて、不登校の子どもたちが社会復帰するには人と出会う、社会と触れ合うという経験が必要である。駅前の立地なら駅から歩いて来るまでいろんな人と出会う。そういう点において駅前という立地は非常に大事である。また中央図書館の近くというのも大きい。福山で一番大きな図書館で子どもたちは自然と文化に触れることができる。また保護者も子どもたちの送迎の待ち時間に図書館という文化に触れることができる。文化に触れた親は家庭の中での教育力が上がり、子どもたちとのかかわり方が変わっていく。

#### 【藤岡さん】

- ・フジゼミという高校生以上の大学受験をメインにした学習塾を運営している。塾の方針はゼロから教え直す。学力、経歴、年齢は一切不問なので、生徒の中には高校を中退した人、社会経験をしてもう一度学び直したい人、様々な人がいる。失敗したり躓いたり人より回り道をしたけれど進学したいという人を一から教え直している。
- ・時代は多様化し、それぞれの価値観に合わせるために教育も色々変わらなければならない。変わるためのツールは沢山開発されていて、その1つが ICT ツールなどのいわゆる情報通信ツールを駆使した指導のやり方である。今の教育のテーマは、個別細分化である。一人ひとりに細分化された教育を提供する、それが実現できる時代になり一人1台タブレットの時代がすぐそこまでやってくる。色んな AI 教育ソフトもどんどん出てきている。

そういったものがこれから学校、予備校、家庭にどんどん入っていく。そうなると学校も従来の5科目中心の教育が半減し、探求教育、世の中の疑問を自分で発見して課題を解決していく時間を持つ教育が変わっていく。福山城はまさに福山にしかない財産、城を中心とする駅前は探求の場を作る上では土地の有効利用の可能性にあふれている。福岡県には市と大学が連携して不登校の小中学校の子どもたちが大学の特別なカリキュラムに参加すると学校に出席したことになるという取り組みがあるが、福山市にも市立大学がある。官民一体となった資源が沢山あると思うので色んな経験の中からそういったことも追求していきたい。

### 【水船さん】

- ・2016年まで中学校教育に携わって退職し、今は教育委員会で学校を回りながら学校経営の相談をしたりしている。2016年は福山市制100周年の年で、100年先を見越して教育を作っていこうというのが福山100年教育の出発だったと思う。それから4年経ち今日のような正解のない答えを求めて知恵を出し合うという授業がある。生徒たちが社会に出るとそういった場面に遭遇する。正解のない授業で一番困っているのは教師である。
- ・新任の先生に困っていることはないか聞くと、悩みはあるがそれを職場で言えないと答える。社会に出て1つ大切なのはSOSを出せるかだ。子どもの頃から分からない、教えてといったことを授業の中でも実現する。大人になったとき職場の中で悩むばかりではなく、こうしたらどうかと解決できる力が求められる。そういった授業が出来たら、ということを生徒から学んだ。
- ・主体的とは何か。なりたい自分がないのにしたいと思えるか。将来こんな仕事がしたい、こんな大人になりたいと思えるようになって初めて主体が出るのではないか。こうなりたいという将来がある子は小学校のときに本を読んで感動したからという理由が多い。子どもたちが限られた狭いエリアの中で将来を決めるのは非常に難しい。ICTの活用で色んなことを知っていくことも必要だが、本で先人から色んなことを学ぶことによって自分なりしたいものを見つけていくこともできる。図書館が、子どもたちが自ら行ってみたいくなるような場所になる、今日はそんな話が出てくればいいと思う。

### 【福原さん】

- ・福山市の教育の力になりたいと福山に学習塾を立ち上げた。教育にもICTの波が来ていて、学年、教科、レベルもバラバラな生徒を一人の先生が同時に教えるためにタブレットを使って授業を進めるシステムを開発した。AIも活用し、あらゆる生徒の成績向上を目指したが、約1割の生徒はこのシステムでも成績が伸びない。中には発達障害、学習障害の子どももいる。それで発達障害の子どもの施設として放課後デイサービスを開設した。学校の勉強に自信を持って臨める子どもたちを育みたいと市内3箇所で開催している。
- ・これからは多様性の世の中である。一人ひとりが勉強したいことを勉強し、納得する人生を送るためにはどうすればよいかを考える組織が必要と考え、キャリア教育事業のNPO法人を立ち上げた。キャリア教育とは職業教育ではなく、何のために勉強するのかを考えて自立した人間を育むことができるような教育をやっていきたい。

### 【大石さん】

- ・授業で夢チャレというのがある。僕はやりたいことが明確に決まらず、やりたいこと

が見つかったときにそれを形にするためにはどうすればいいかを学びたい。起業は1つの手段だと思う。起業するためには専門の知識，経済，経営の勉強が必要と考え，それを学ぶためにアクション会議に参加したり，ビジネスプランを立てて競いあうビジネスコンテストに参加したりしようと思っている。

- ・夢の実現のために何かやるというのは市立高校でもかなりやっている。中学のとき職業体験に行ったり，高校でも起業研修に行ったりした。自分のやりたいことを見つける学習ややりたいことのために専門知識を知るという教育はすごく変わってきていると思う。
- ・福山駅前の再生については，友達に色々な意見を聞いて思ったのが，安くて時間が長く取れる空間を求めている。空いている土地を使って，学生や地域の人が安くゆっくり時間がとれる場所を考えている。そのための知識や人脈をアクション会議に参加して学びたい。

#### 【古賀さん】

- ・伏見町で飲食店をオープンした。きっかけはリノベーションスクールに参加したことである。スクールの中でまちづくりは人が一番主になるということに共感した。
- ・スクールの物件では公園を担当した。まちづくり会社 leuk を立ち上げ，中央公園で「レモンと本」という2ヶ月限定の店をやっている。使う人，作る人，計画する人の中で作る人の興味を優先してしまったが，使う人の目線で物事を作らないとだめだと再認識した。視察で海外の公園を見たが，いかに使う人が気持ちよく笑顔で使っているかに共感した。作る人の自己満足でなく最終的に使う人のことを考えないといけないということを反省した。
- ・「レモンと本」をやってみて嬉しかったこともある。夜遅く準備作業が終わったとき，自分たちと図書館や産業振興課の方が笑顔で片づけをしていた。エンドユーザーが楽しいのはもちろんだが，やっている側が笑顔でないと意味がない。みんなが笑顔になればそれがまちづくりではないか。作る人が声掛けを沢山して皆さんと一緒に笑顔であふれる福山のまちづくりをしたい。

#### 〈意見交換〉

#### 【阪口さん】

- ・古賀さんと実証実験の出店に参加している。参加しての感想は利用者のリアクションがとても良い。カフェのようなお店があるのがうれしいという声をよく聞く。アンケートを配っているが，実証実験では利用者の意見をデータとして取るのが一番大事だと思っているので，市民と行政の橋渡しとして認識している。

#### 【渡邊さん】

- ・縛られない教育の場を福山でどのように作っていくかが大切である。義務教育が終わり高校でも指導要領に縛られ，ある意味過保護な環境で育てられている。大学では指導要領が

無いのに、自分の専門だったりロジカルシンキングだったり、路線の延長の上で教えているのではないかと痛感させられた。

**【岡本さん】**

- ・自分の周りを見ても将来何がしたいか分からない人が多い。この会議には先生のアドバイスもあり参加した。何がいいか分からないなとか、こうしたいなという希望があっても実現できない状況が多いので、高校生から続けられる環境があったらいいと思う。

**【前岡さん】**

- ・会議冒頭の池田部長の話のように投資をすることによって収入が上がり再投資する形が取れるようなアイデアが出たらいいと思う。図書館は蔵書も沢山あり、この空間が3年後、5年後に私たちが毎日行きたいと思う場になればよい。2号線で分断されているような気がするので、施設なりが連続的にあって福山駅から図書館までストーリーを描けるようになればいい。

**【新宮さん】**

- ・学校では2～3年前から進路について生徒に合わせてそれぞれの取り組みをしている。授業中は出来ないが放課後や休みを使って外の世界を知り、色んなことを考えさせていきたい。
- ・個人的には演劇部の顧問をやっているので、駅前に公演など文化を発信できるちょっとした施設がほしい。今は高校生が手軽に使える施設がない。

**【小畑さん】**

- ・今は寿命が延びて、60代過ぎても学ばなければならない。
- ・福山にも通信教育があってそこで学んでいる生徒が沢山いるという実態を皆さん知らないのではないか。暗いイメージではなく皆さん明るくて色んな人生を背負って学び直している、そんな実態を知らなさ過ぎる。
- ・また学び直していると、有名な山本滝之助など、福山には知らないことが多いとつくづく思う。知ってもらいたい人物や事柄がたくさんある。

**【大石さん】**

- ・公共と民間の融合というテーマで図書館の話をする、公共は硬くて行きづらいイメージがあるので足を運びにくい。最近はカフェと融合した本屋が多く、そういうところの方が行きやすいし、ゆっくり本を読める。勉強や休憩などで図書館の方が足を運びやすくなればよいと思う。

【渡辺さん】

- ・今回のテーマは教育ということで、38歳の自分たちが教育を受けた時代は同じ知識を同じように学んだ。均一な教育を受けてきたのに、いざ就職となると個性を求められる。大学の就職活動でそんなギャップを感じた。これからの教育は ICT や AI を活用しながらどうやって個性を伸ばすか。更に社会に出れば皆と協調することも大事で、そういう力をどう育んでいけばよいか考えたい。
- ・高校生はお金がなくて集まる場所がないということだが、どういったところに集まるのか。駅の北口にはシャトルバスの定時になるとどこからともなく若い人が集まる。土曜夜店も驚くほど沢山の人が集まる。どういう時にどういう場があれば集まるのか教えてほしい。

【大石さん】

- ・いつもはカラオケ、映画、ボウリングに行っている。こういう場所はお金がかかるので小遣でやりくりしないと行けない。少しの合間にも行けて、お金が無くても集まってゲームしたり会話したりというちょっとした空間があるといい。カフェなどの店だと時間が気になりあまりゆっくりできる雰囲気ではない。

【福山高校生徒】

- ・休日遊びに行くというより放課後ちょっと寄れる場所がほしい。コンセントや Wi-Fi があると嬉しい。

【木村さん】

- ・アンケートを取るとベンチや公園がほしいという声が多いが、恥ずかしがりの風土か、実際は人目を気にして利用しないことがほとんどだ。
- ・駅前ばかり力を入れるのではなく、さとまち環状線というものを作りたい。福山は2号線、JR、駅前大通りで街が完全に分断されている。環状線とは、福山は城下町だったので城下町の外円を結んでいこうということである。そこには何かの心があるはずだ。大黒町には城下町に入る惣門があり、本通りを南に行くと大勝館という映画館があった。そこから霞銀座を歩いてリムあたりへ、JR をまたいで美術館や博物館に行く。北の方には神社、仏閣がたくさんあり散策ができる。

【河島さん】

- ・霞銀座で店をやっている。お客さんが来て喜んで帰り、もう一度行ってみたい店、それは福山にも通じる。行ってみたい福山、行ってよかった福山、もう一度行きたい福山、を目指して頑張りたい。

【小林さん】

- ・社会人サッカーチームとチアダンススクールの運営をしている。スポーツを通じて健康や地域を活性化しようと活動している。
- ・駅前に住んでいるが、飲食店もどんどん増えて駅前の変化を肌で感じている。出張で色々な街に行ったとき走るのだが、福山駅前には走る場所がない。他所から出張で来た人はどうやって走っているのかと思う。健康を守るのはまちの活性化に繋がる。スポーツに飲食やアパレルが加わると非常にいい。駅前の活性化にスポーツで貢献したい。

【木村さん】

- ・本通りでカフェだったところを改装して学習支援をしている。カリキュラムは無く、それぞれ勉強したいものを持ってきて勉強する。不登校の子どもも毎週火曜日に来ている。不登校の子どもは勉強する以前の問題で自分を表現する術を持ってないので、それを引き出す努力が要る。彼らは普段運動する場所がない。学校に行っている子も不登校の子も含めて集えるフリースクールのような場所がほしい。土いじりや料理ができるなど創造的な教育の場がほしい。
- ・外国にルーツを持つ子どもたちは言葉が不自由でしんどさを抱えている。カナダの図書館は英語を教えてくれるボランティアが常時いる。そんな感じで勉強を教えてくれたり日本語を教えてくれたり、気軽にできればいい。
- ・交通の便について、動物園に行くバスが少ない。子どもたちが気軽に行って気軽に楽しめる、そういう場所が交通機関も含めてもう少し増えたらいい。

【岡崎正信さん】

- ・サッカー協会とバレーボール協会に関わっているが、お金がなくなると、サッカー協会は「稼ぐ方法を考えてください」と言う。バレーボール協会は「寄付を募ってください」と言う。経営者がどうなっているかというところとサッカーはビジネスマン、バレーボールは学校の先生が務めている。これは由々しき問題で、自立できる人間を育てないといけない。

【園利一郎さん】

- ・通信制高校に無いもの、ひとつは地元である。地域に根ざした人材の育成環境が失われる。地域の結びつきをどのように再構築していくかが大事だと改めて思った。

【ファシリテーター 清水義次さん】

- ・N高校はコミュニティを作ることすごくやっている。逆に地域のコミュニティは薄れている。福山も47万の砂粒が集まっているまちになりかけていないか、とても気がかりだ。
- ・直接顔をあわせて話したり、挨拶したりするよりツールを介したほうがコミュニケーションを取りやすくなっているのではないかと感じる。

以上